

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年07月11日

計画の名称	高規格幹線道路へのアクセス強化に伴う地域の活性化を支援する道づくり												
計画の期間	平成30年度 ~ 令和04年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	宮崎県												
計画の目標	高規格幹線道路等へのアクセス強化を図ることにより、地域の活性化を支援する道づくりを推進する。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	6,995	A	6,995	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H29末	R2末	R4末
1	・高規格幹線道路等へのアクセス強化を図ることにより、(走行短縮時間×交通量)を増加させる。 (走行短縮時間×交通量を算出) = (箇所N1の整備前の走行時間×箇所N1の交通量) - (箇所N1の整備後の走行時間×箇所N1の交通量)	0h・台/日	92h・台/日	169h・台/日

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	<input type="radio"/>	連携中枢都市圏を含む	<input type="radio"/>	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	-----------------------	------------	-----------------------	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)宮崎西環状線・古 城工区	バイパス L=1.2km	宮崎市						1,737	12.1	-
	A01-002	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(一)城ヶ崎清武線・本 郷北方工区	現道拡幅 L=0.9km	宮崎市						1		-
	A01-003	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	新設	(一)木脇高岡線・宮王 丸工区	バイパス L=0.96km	宮崎市						540	1.2	-
	A01-004	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	新設	(一)木脇高岡線・太田 原工区	バイパス L=1.26km	国富町						1,238	1.2	-
	A01-005	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	新設	(一)学園木花台本郷北 方線・山下工区	バイパス L=1.12km	宮崎市						455		-
	A01-006	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(一)大久保木崎線・木 花南工区	現道拡幅 L=1.0km	宮崎市						0		-

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-007	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)宮崎須木線・小野 工区	現道拡幅 L=2.465km	小林市						35	-	
	A01-008	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)宮崎須木線・川中 工区	現道拡幅 L=1.8km	綾町						3	-	
	A01-009	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(一)えびの高原京町線 ・岡元工区	現道拡幅 L=2.2km	えびの市						0	-	
	A01-010	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)宮崎インター佐土 原線・赤江工区	現道拡幅 L=0.4km	宮崎市						0	-	
	A01-011	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)都城東環状線・今 町工区	現道拡幅 L=0.96km	都城市						887	-	
	A01-012	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)佐土原国富線・広 瀬工区	現道拡幅 L=0.5km	宮崎市						504	-	

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-013	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)宮崎インター佐土 原線・宮崎IC工区	現道拡幅 L=0.9km	宮崎市						0	-	
	A01-014	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	国道	改築	(国)448号・宮原工 区	現道拡幅 L=0.4km	串間市						54	-	
	A01-015	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)都城霧島公園線・ 横市橋工区	現道拡幅 L=0.325km	都城市						990	-	
	A01-016	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	国道	改築	(国)218号・深角2 工区	現道拡幅 L=1.025km	日之影町						111	-	
	A01-017	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(一)飯野松山都城線・ 諏訪山工区	現道拡幅 L=0.3km	都城市						0	-	
	A01-018	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)佐土原国富線・下 那珂工区	現道拡幅 L=0.3km	宮崎市						0	-	

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-019	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(一)清武インター線・ 清武南工区	現道拡幅 L=0.34km	宮崎市						232	-	
	A01-020	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)高鍋高岡線・新富 工区	現道拡幅 L=0.12km	新富町						29	-	
	A01-021	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	国道	改築	(国)269号・麓工区	現道拡幅 L=0.34km	都城市						159	-	
	A01-022	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	(主)宮崎須木線・小野 2工区	現道拡幅 L=0.5km	小林市						0	-	
	A01-023	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	国道	改築	(国)269号・脇別府 工区	現道拡幅 L=0.24km	都城市						20	-	
											小計						6,995		
											合計						6,995		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 宮崎県県土整備部にて評価を実施	事後評価の実施時期 事業終了後
	公表の方法 宮崎県ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	高規格幹線道路へのアクセス道路の整備により、交通の円滑化が図られ、地域活性に寄与した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	-
特記事項（今後の方針等）	
事業の全線供用のため、引き続き事業推進を図り、事業効果の早期発現を目指す。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	169h・台/日	<p>アクセス道路の整備を行うことにより、（走行短縮時間×交通量）を増加させる。</p> <p>各工区の全線供用及び部分供用により、移動時間の短縮や走行性の向上が図られたことで、最終目標値以上の進捗となった。今後は、未完了工区の整備推進を図り、事業効果の早期発現を目指す。</p>
	最終実績値	197h・台/日	